



5/1

毎年5月は赤十字運動月間です

宜野湾市赤十字社資募集増強運動出発式



市役所にて「宜野湾市赤十字社資募集増強運動出発式」が行われました。市赤十字奉仕団の桃原美智子委員長は「地域の家族や身近な皆さまの幸せを願い、より良いボランティア活動が続いていくために、声を掛け合いながら協力して頑張りましょう」とあいさつしました。日本赤十字社のいのちを救うさまざまな活動は、皆さまからの継続的なご支援に支えられています。

4/29

子どもたちが地域の講師から学ぶ防災教室

大謝名小で地域防災リーダーによる授業が実現



大謝名小学校3・4年生を対象に「地域防災リーダー養成講座」修了者を講師とした「防災授業」が開催されました。3年生は、地震・津波についてをクイズ形式で楽しく学び、4年生は、AEDの使い方やペットボトルを使った心臓マッサージなど、緊急時の対応手順を体験的に学びました。参加した児童は「救急車が到着するまでに大人を呼ぶ大切さを学んだ」と話しました。

4/24

見守りの輪で、安心なまちづくりを

消費者被害防止見守りネットワーク委嘱状交付式



消費者安全確保地域協議会「消費者被害防止見守りネットワーク」の構成員の15団体に委嘱状が交付されました。このネットワークは、消費者被害に遭いやすい方々を守るため、地方公共団体と地域の関係者が連携して見守り活動を行うものです。各団体の日頃の業務での「気づき」や「声掛け」から適切に消費生活センターに繋げることで、被害の未然防止や拡大を防止することが可能となります。

4/17

宜野湾市から世界へ

JICA海外協力隊員 久田祐希さん派遣報告



JICA海外協力隊員であり助産師の久田祐希さんが市役所を訪れ、5月から2年間ラオスのサワンケート県病院(産婦人科)に派遣されることを報告しました。久田さんは「琉球大学病院で学んだ知識や経験を生かし、現地の良いところはそのまま残しつつ、ラオスの母子保健の改善に取り組んでいきたいと思っています」と意気込みを語りました。

～寄附・寄贈など～ 温かいご支援ありがとうございます

3/26

イースペースグループ

市内の子育て世帯とこどもの居場所へ
琉球海炎祭チケット100枚

3/31

琉球海炎祭実行委員会

市内のひとり親家庭へ
琉球海炎祭チケット300枚

4/15

有限会社ゆいまーる水道

宜野湾市育英会へ
寄附金200,000円

5/7

新光産業株式会社

企業版ふるさと納税
寄附金1,000,000円

5/13

JAおきなわ宜野湾支店

宜野湾市へ
JA共済オリジナル
親子健康手帳ケース1,000個

沖縄平和祈念像『原型』復活プロジェクト クラウドファンディングを実施します!!

沖縄平和祈念像原型は、沖縄の偉大な芸術家(故)山田真山画伯が、全戦没者の追悼と世界平和を願い、晩年の18年の歳月を捧げ制作されました。原型は昭和50年の完成から約50年が経過し、ひび割れや剥落があり、劣化が進んでおります。

本プロジェクトは、この原型を修復し公開することにより、宜野湾市普天間から平和を願い、世界へ発信します。原型の修復には多額の費用を要するため、修復費用の一部をクラウドファンディング*によって全国の皆さまから寄附を募りますので、ご寄付いただけましたら幸いです。

*インターネットを通して、思いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募るしくみ。

受付期間

令和7年6月13日(金)～9月10日(水)

プロジェクト期間中(令和8年度まで予定)に寄附された額の合計が、**5万円以上**の方には、原型展示棟の**奉名板に名前を表示**することができます!

寄附の方法などは、宜野湾市ホームページまたは、下記までお問い合わせください。



プロジェクト期間中は、このQRコードから寄付いただけます。

昨年度の寄附実績額

654,200円(40件)

ご支援ありがとうございました。



問い合わせ 企画政策課 ☎893-4461(直通)

4/26

ぎのわんに夏到来!

2025年トロピカルビーチ海開き



ぎのわんトロピカルビーチにおいて、海開きが行われました。シーズン中の安全を願う「安全祈願祭」が執り行われた後、佐喜眞市長によって海開きが宣言され、待ちわびていた来場者たちが、次々と海へ駆け出しました。会場では、くじ抽選会やバナナボート・シーカヤックの無料体験、輪投げ大会の開催など、ビーチ各所で笑顔と熱気にあふれ、楽しむ来場者の様子が見られました。

4/24

FC琉球夢ボールプロジェクト

嘉数小学校へサッカーボールを贈呈



FC琉球の幸喜祐心選手、川島康暉選手が嘉数小学校を訪れ、子どもたちにスポーツの楽しさや夢を持つ大切さを感じてもらうことを目的に、小学生がデザインしたサッカーボールを寄贈しました。「どうしたらプロサッカー選手になれるか」という児童からの質問に対し、川島選手は「感謝の気持ちを持ち続けることが必要」と話し、周囲の人への思いやりが、夢に近づく第一歩になると伝えました。